



フードバンク関西×長田区社会福祉協議会

2025年度 生活困窮者支援モデル事業

子ども元気便♪

社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会
長田区社会福祉協議会

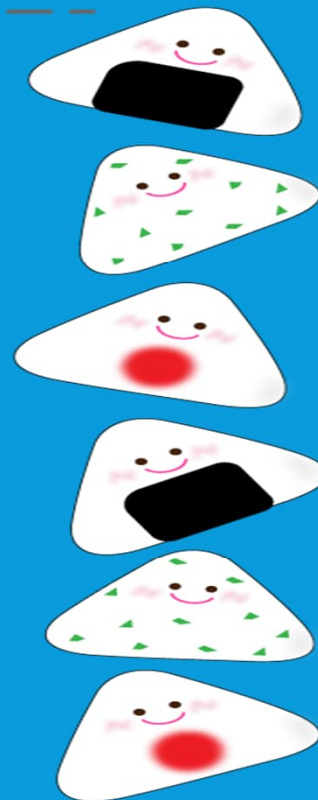
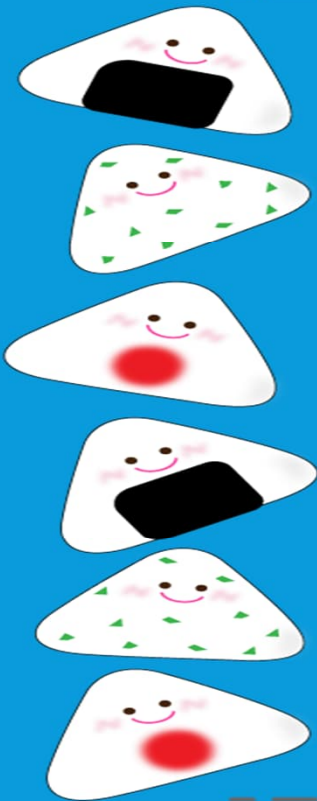
地域福祉ネットワーク 高取 夏希



長田区社会福祉協議会としての目的

- ・長田区社会福祉協議会へ相談のあった
ケースに対し、

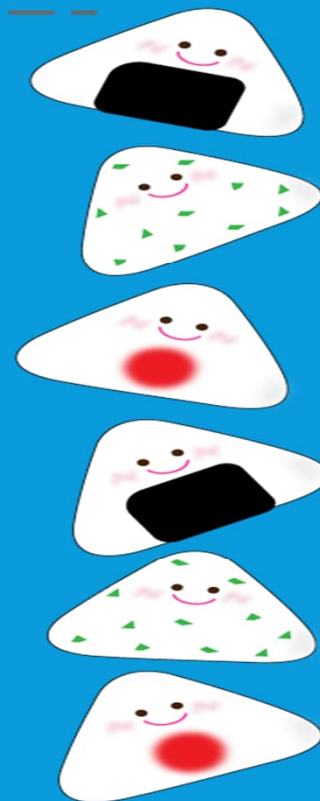
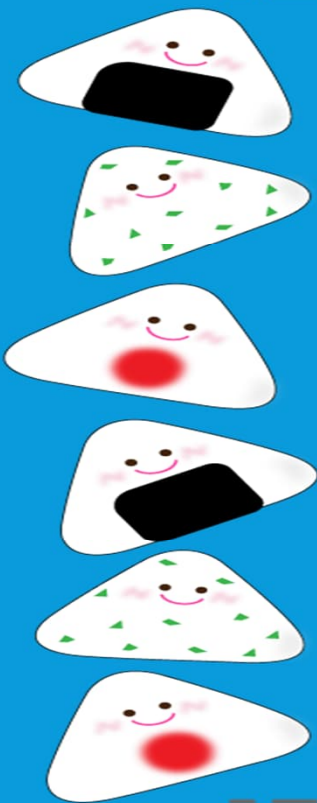
3か月に一回、世帯の変化をキャッチし、
必要な時に、自立支援制度につなぐことで、
世帯の自立を支援するものとする。



対象者について

長田区内に在住（住民票も）、

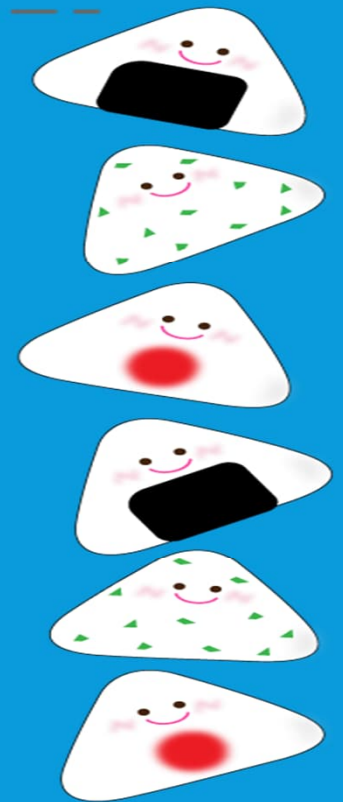
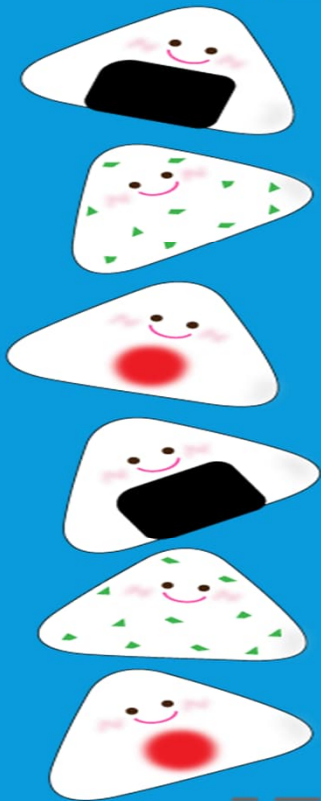
小学1年生～高校3年生以下の
子どもがいる世帯で…



対象者について

1, 長田区社会福祉協議会で
申込手続きをして、

コロナ特例貸付と教育支援資金の貸付を
受けている世帯。



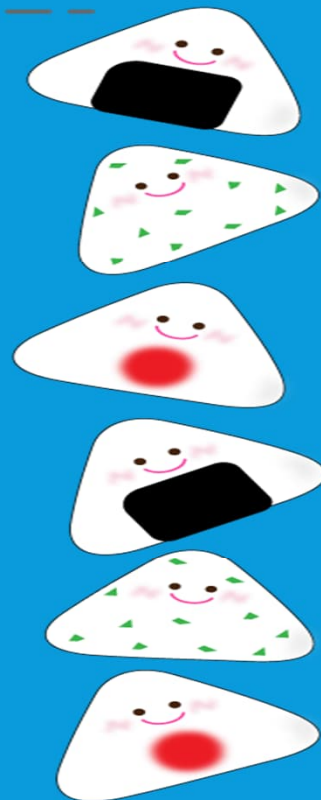
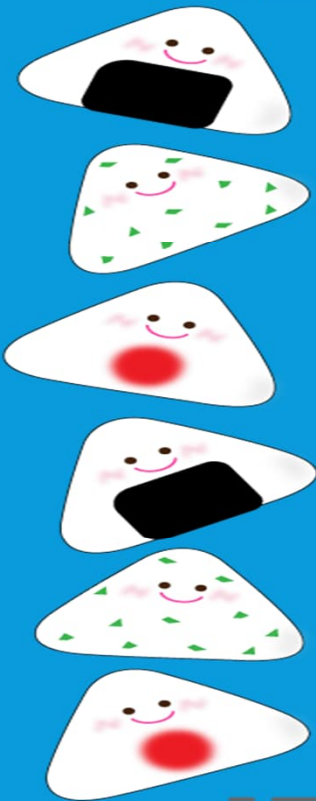
対象者について

2, 長田区社会福祉協議会に相談のあった世帯のうち次のいずれかに該当する世帯

- ①生活保護を受給していないひとり親世帯
（児童扶養手当受給世帯）
- ②低所得者世帯（おおむね非課税世帯）

対象者について

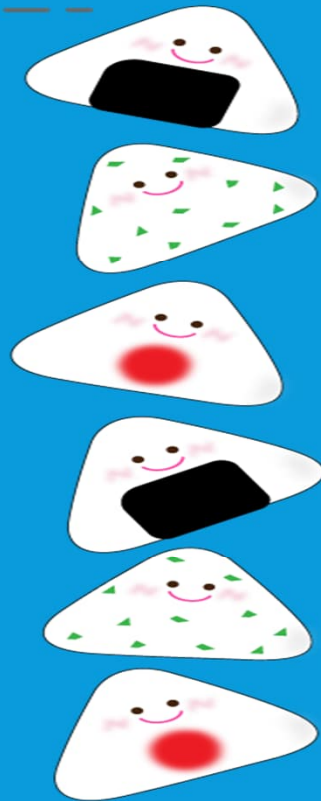
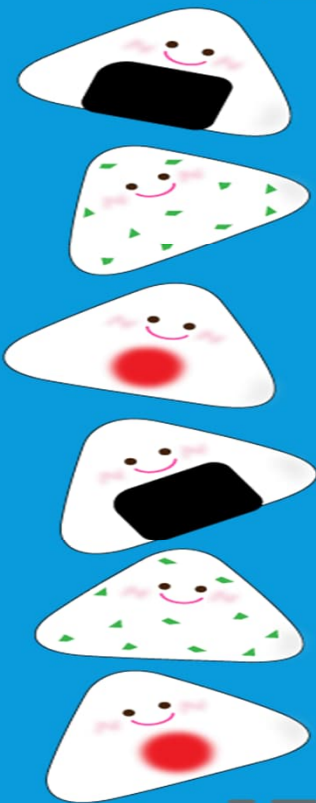
3. 暮らし支援係へ相談があった世帯で
モニタリング的に支援が必要な世帯



支援事例①について

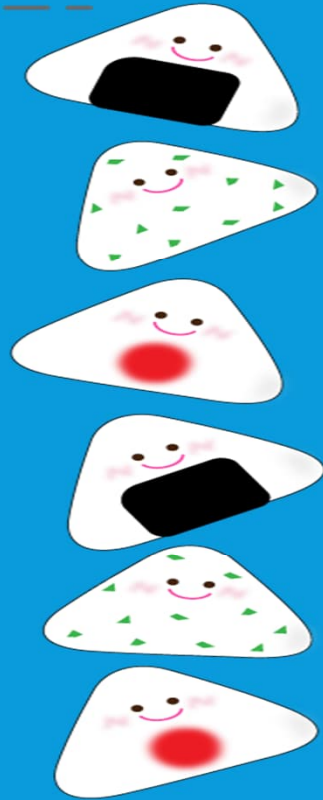
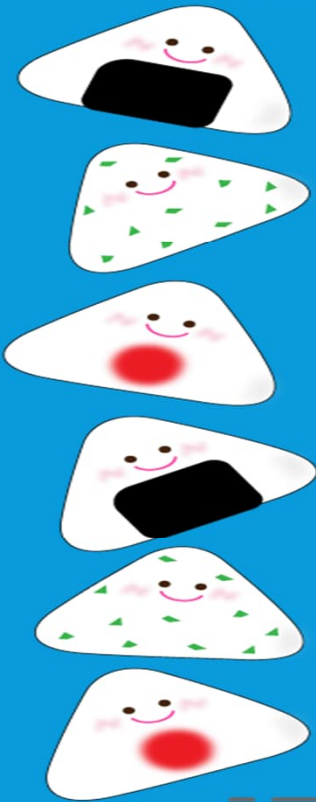
40代母・小2長女・年中長男

母は離婚後、心身に不調をきたし、退職。
求職活動をしたものの、うまくいかず、
実家との関係も破綻。



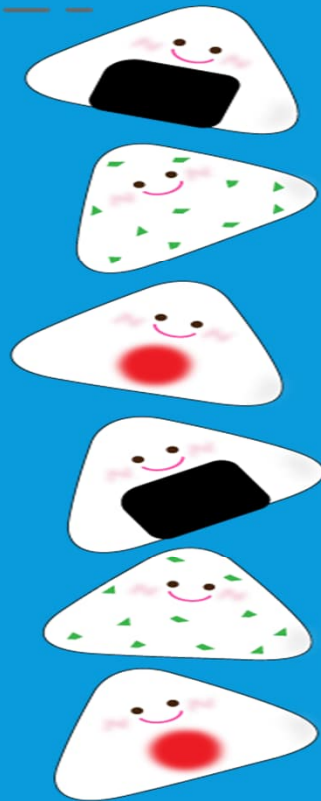
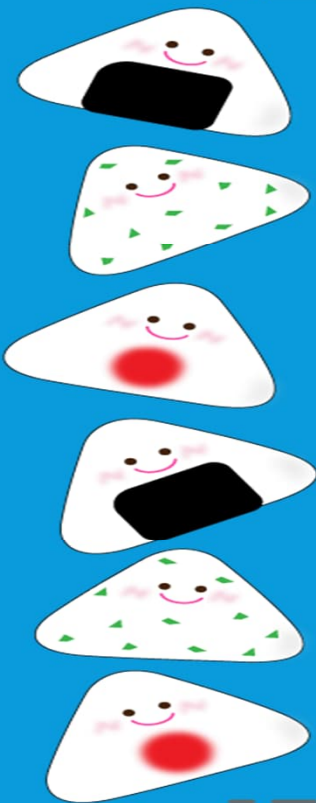
支援事例①について

だれにも弱音をはいてはいけない、
頼ってはいけないと思うことで、
体調不良が悪化していた。



支援事例①について

こども元気便を通じ、
長田区社会福祉協議会での相談が密になり、
生活保護受給に向けて相談中。

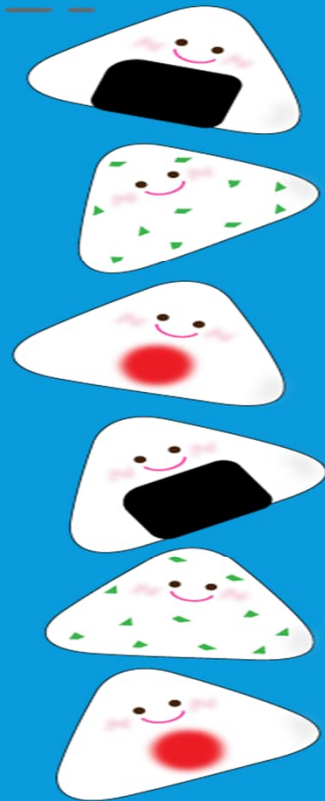
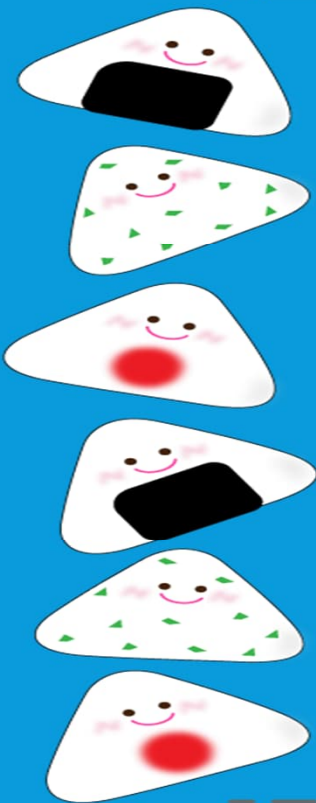


支援事例②について

40代母

高1長女・中3二女・年中三女

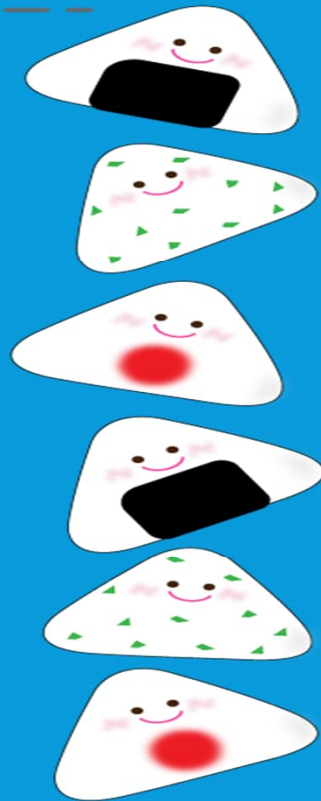
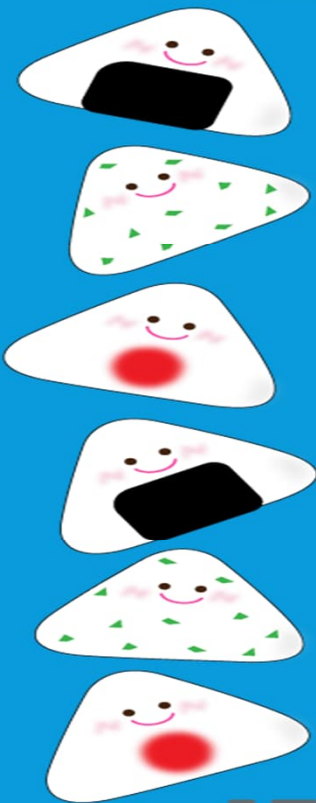
母は、知的障害があり、
子の成長が自分を追い越してきたと
育児に悩みを抱えていた。



支援事例②について

計画相談事業所、障害福祉サービス事業所
へも相談していたが、いろいろと言われるこ
とを口うるさいと感じてしまい、
関係性が破綻。

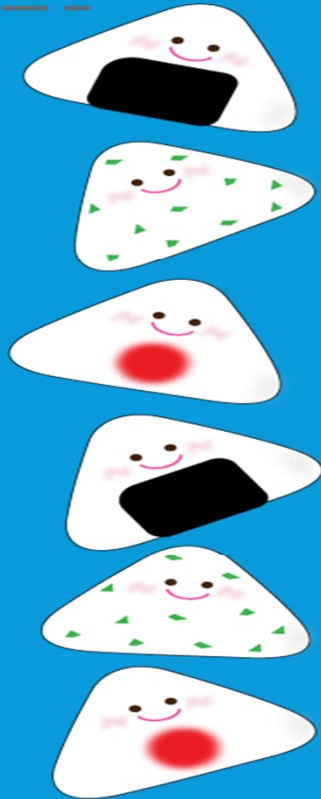
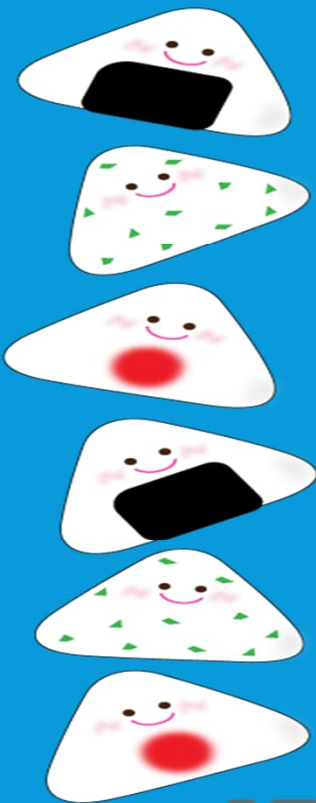
行く先を告げず、勝手に転居してしまった。



支援事例②について

「こども元気便が届かない…」という連絡を
フードバンク関西 担当者様よりいただき、
本人へ架電。

思いを傾聴。

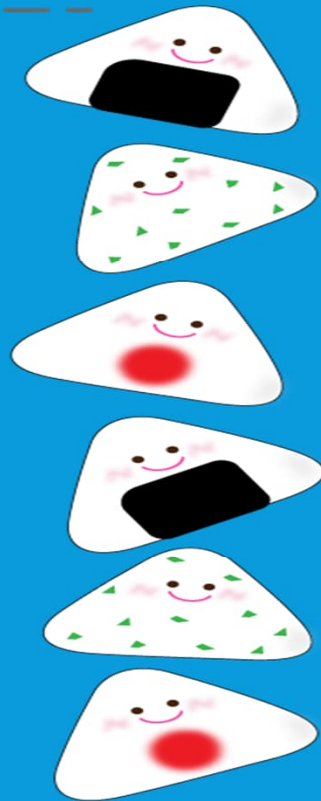
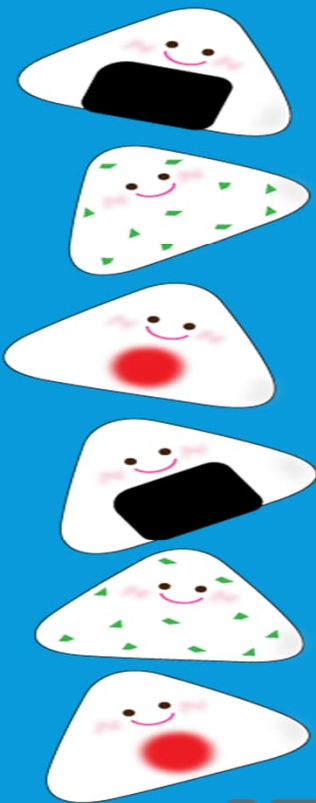


支援事例②について

こども元気便の送付を希望され、
転居先住居を教えてくださいました。

第一便を受け取ったあと、
長田区社会福祉協議会との関わりを継続。

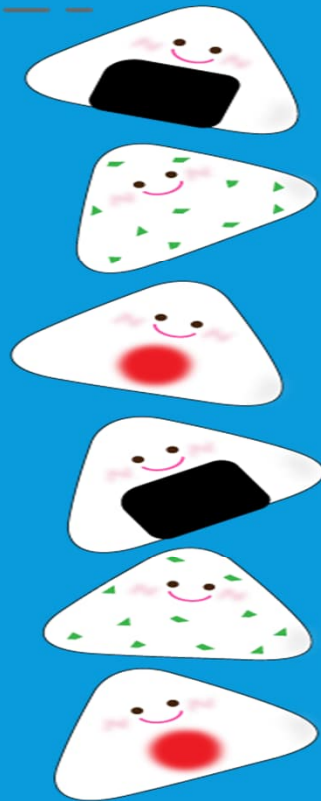
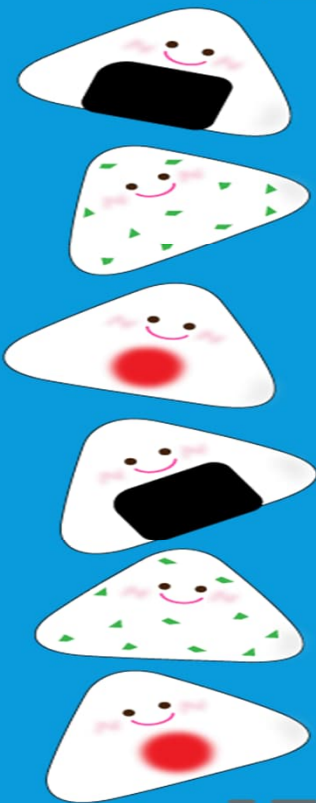
計画相談事業所との関係改善につながった。



支援事例②について

長女と次女については
児童養護施設で生活を送ることとなり、

適度な距離で
本人が穏やかに子育てできる環境について
検討・支援中。

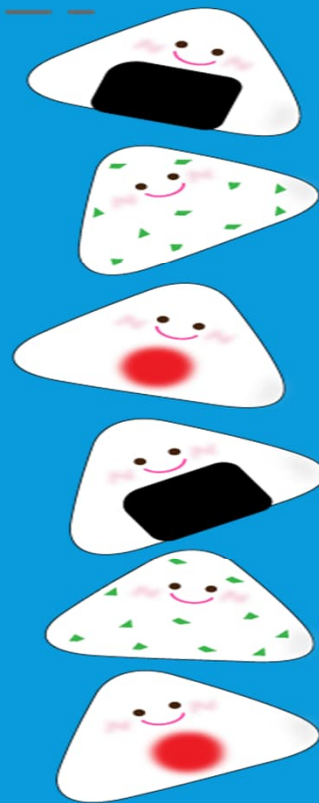
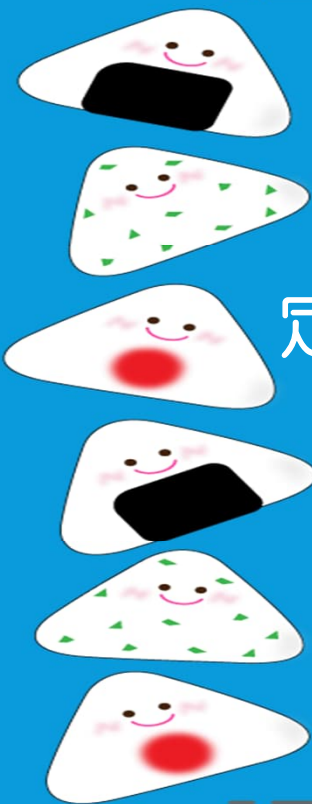


こども元気便の成果について

世帯状況変化の迅速なキャッチと 支援への結び付け

定期的な食糧支援を「入口」として機能させ、
行政機関では把握しにくい初期のサインをと
らせることができ、

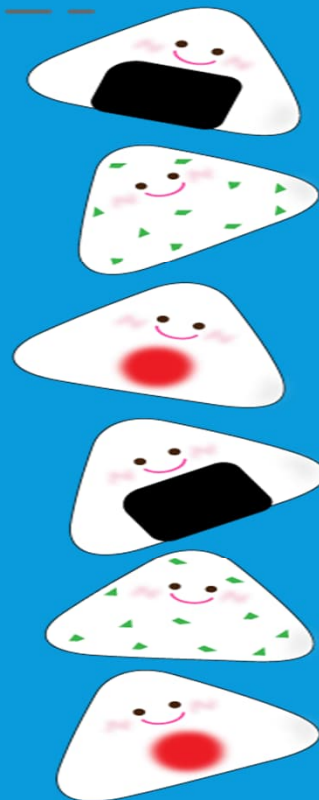
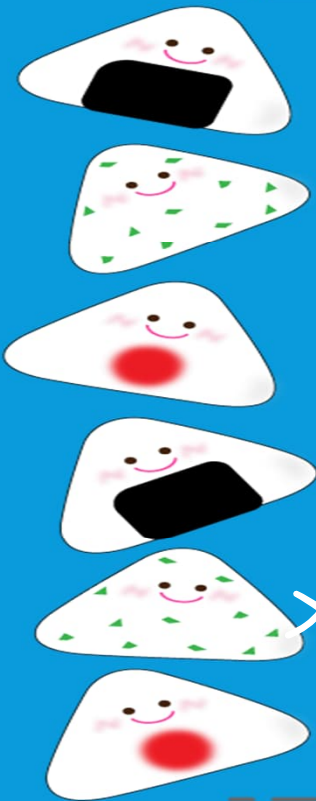
相談窓口や、専門機関との連携を
円滑に行うことができた。



こども元気便の成果について

「孤立の防止」と「安心感の提供」

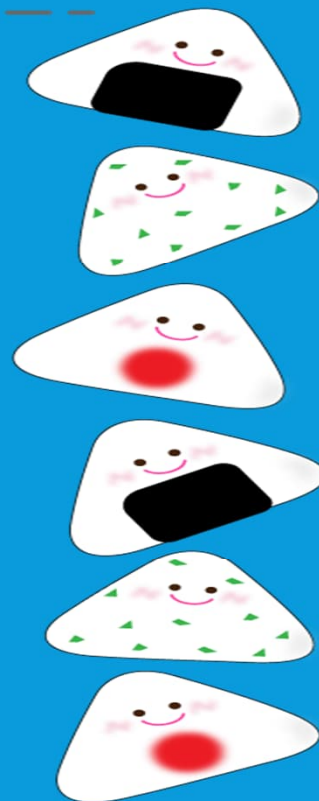
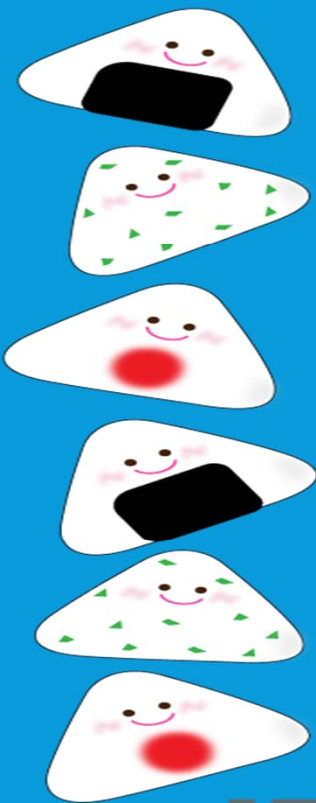
食料の提供だけではなく、
相談窓口の存在や
対象者に「ひとりではない」という
メッセージを常に伝える重要な機会となった。



こども元気便の成果について ～まとめ～

「孤立の防止」と「安心感の提供」

前述の二つの軸で、
子育て世帯に対する多面的かつ、
きめ細やかなサポートを提供でき、
生活の安定と福祉の向上に
大きく貢献できたと考えます。



最後に...

ご清聴、ありがとうございました♪

